

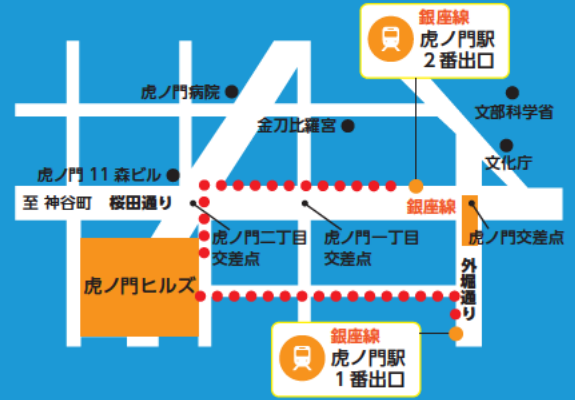
TOKYO

10月26日(水)

9:30 開場 10:00 開始

虎ノ門ヒルズフォーラム

東京都港区虎ノ門 1-23-3
虎ノ門ヒルズ森タワー 5階
TEL: 03-5771-9201



○ 銀座線「虎ノ門駅」1,2番出口
徒歩約5分

10:00-10:15

ご挨拶

10:15-11:45
基調講演



拓殖大学 総長
元防衛大臣
森本 敏氏

日本と今後の国際情勢

【プロフィール】

昭和16年東京生まれ。防衛大学校理工学部を卒業後、防衛庁入省。昭和52年外務省アメリカ局安全保障課に出向。昭和54年外務省入省。在米日本国大使館一等書記官、情報調査局安全保障政策室長など一貫して安全保障の実務を担当。専門は安全保障、軍備管理、防衛問題、国際政治。平成4年以降、野村総合研究所主席研究員、慶應義塾大学、中央大学、政策研究大学院大学、聖心女子大学などで講師・教授を務める。平成12年より拓殖大学国際学部教授等を経て、平成28年から現職。平成24年民間人として初の防衛大臣に就任。平成27年防衛大臣政策参与に就任し現在に至る。

【著書紹介】

「“海洋国家”中国にニッポンはどう立ち向かうか」(編著、日本実業出版、平成28年7月)
「防衛装備庁—防衛産業とその将来—」(編著、海竜社、平成27年12月)ほか多数。

真の安全・安心社会を目指して

13:15 自然災害の軽減に向けた
14:45 情報の提供について



気象庁
予報部長

関田 康雄氏

気象庁では、自然災害の軽減に向けて、様々な防災情報を発表しています。本講演では、気象庁が気象・火山・地震それぞれの災害軽減のために発表する防災情報が、どのような技術基盤に基づいて作成されているか、また、これらの情報をどのように活用すれば良いかを解説します。さらに、防災情報改善の方向性についても紹介します。

サステナブル社会の実現

13:25 森と都市の共生
14:55 — 循環型資源としての都市木造 —



東京大学
生産技術研究所 木質構造デザイン工学
教授

腰原 幹雄氏

2000年の建築基準法改正により、都市部でも大規模な木造建築が実現可能となり、少しずつではありますが、多層の都市木造が誕生しています。都市部の建築に求められる構造性能・耐火性能を満足させる都市木造のための基本的な技術に基づいて、第2ステージとして魅力的な木造の提案が求められています。また、都市木造は森林資源の有効活用という視点からみると、木材の資源循環の一部を担っています。本講演では、森と都市の共生の中での都市木造の将来像について考えます。

人を助けるテクノロジー

13:35 生活の支援としての
15:05 自動車自動運転



筑波大学
システム情報系
教授

伊藤 誠氏

自動車の自動運転に関する技術開発が進み、部分的には実用化も始まっていますが、一方では、自動運転に起因する事故もいくつか発生する事態が生じています。自動運転は、一過性のブームにとどまらず、本当に高齢者をはじめとする人々の日々の生活に役立つものになっていけるのでしょうか。本講演では、自動運転の開発において何が課題となっているかを紹介するとともに、その課題を克服するための方法や、今後の展望について考えます。

15:15 事故未然防止のための
16:45 安全文化醸成戦略



慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科
教授

高野 研一氏

原子力、食品、自動車、鉄道などの組織事故は、企業による人員削減や設備投資抑制、安全体制の緩慢な後退、スケジュール優先の職場風土など組織要因により発生したとされ、これに対処する概念として「安全文化」が提唱されました。しかしその概念は曖昧で、産業現場での取り組みに対する具体性に欠けていました。本講演では、過去の研究や実践の成果を整理し、安全文化を構成する8つの要素に分類し、主要要素について実践的な取り組み戦略、具体的なアクションプラン、見える化をテーマとした産業界での取り組みについて紹介します。

15:25 デザインがイノベーションを牽引する
16:55 — 「身の回りIoT」を例に —



東京大学
生産技術研究所
教授

野城 智也氏

現代社会のダイナミズムのなかで、イノベーションの「やりよう」は多様化しています。ただ、日本では、とおりいっぺんのやり方でイノベーションに取り組もうとしており、そのことが停滞・閉塞の一因となっているように思われます。本講演では、日常生活の場でのIoTの利活用を題材に、デザインが牽引するイノベーション(Design Lead Innovation)に焦点をあて、私たちがイノベーションの「やりよう」を如何に革新しなければならぬのかを考えます。

15:35 ヒトの潜在能力を生かすモノづくり
17:05 — 福祉工学への招待 —



東京大学 名誉教授
北海道科学大学
保健医療学部 教授

伊藤 達氏

ヒトはある生体機能が弱ったり失われたりした時に、その機能を代償しようとする潜在能力を持っています。その潜在能力を生かすためのモノづくりに必要なのが「福祉工学」です。生理学や工学など、多様な学問を横断的に駆使する福祉工学から得られた知見や技術は、真に人間と共存・共生できるロボットや人工知能の発展にも貢献します。本講演では、高齢者を含む、視覚や聴覚、運動機能が弱った人たちのために開発した様々な成果と、それらが新たなテクノロジーへと発展する流れについてお話しし、皆さんを福祉工学の入口へと招待します。